



平成21年度水道技術管理者資格取得講習会

本講習会は、水道法施行規則第14条第3号の規定に基づき、厚生労働大臣の指定機関として、水道技術管理者の資格を取得しようとする方を対象に学科講習及び実務研修を実施している。学科講習は、毎年度、東京、大阪、福岡で行っている。本年度の学科講習東京会場は、10月に本会川口研修所及び会議室、大阪会場は10月に関西大学天六学舎、福岡会場は11月に福岡市水道技術研修所において開催した。

1. 実施期間：日本水道協会会議室 9月29日～10月20日
川口研修所 10月6日～10月27日
関西大学天六学舎 10月15日～11月5日
福岡市水道技術研修所 11月17日～12月8日
2. 参加者：367名
3. 学科講習科目：水道行政、水道経営、水質概論、公衆衛生・衛生管理、水道計画、水道水理学・構造力学、土木材料及び施工法・水道資材、水源・取水施設・貯水施設、導・送・配水施設、浄水施設、機械・電気設備、計装設備、給水装置、水源・原水及び浄水処理の水質管理、送配水・給水の水質管理（水質異常時の対応含む）、微生物・生物概論、浄水場見学、工場見学

平成21年度水道技術者研修会（Aコース：11月10日～11月20日）

正会員及び賛助会員の技術職員（水道歴概ね3年未満）の方々46名の参加を得て、「水道技術の現状と課題」「水道計画」「水道基礎工学」「取水・貯水施設」「導・送・配水施設」「浄水施設」「漏水防止実習」「機械設備」「電気設備」「計装設備」「水質管理（I）概論」「水質管理（II）実務」「給水装置」について研修を実施した

平成21年度浄水等設備技術実務研修会（第4回：11月17日～11月20日 第5回：12月1日～12月4日）

浄水場・給水所等の運転管理に携わる技術系職員の方々15名の参加を得て、東京都水道局研修・開発センターの訓練用設備を利用して、実際にポンプの分解組立等、機器類の運転・操作及び浄水処理について実習するとともに設備機器の保守・管理の実務について、研修を実施した。

第144回水道技術管理者協議会（11月19日・20日 於：水戸市）

水戸市水道事業の概要について説明を受けた後に、「新 JIS 水道メータへの対応に関する検討会」の設置、集中豪雨による山口市水道局朝田浄水場の浸水被害、駿河湾を震源とする地震の影響、プロジェクト推進室の開設などについての報告を行い、それぞれ意見交換を行った。

第2日目は、水戸市水道部楮川浄水場において視察を行った。

第164回工務常設調査委員会（11月24日）

はじめに、委員長及び副委員長の選出を行い、委員長に高橋横浜市水道局担当理事、副委員長に吉田東京都水道局浄水部長が就任した。

審議事項については、水道配水用ポリエチレン管（JWWA K 144）及び水道配水用ポリエチレン管継手（JWWA K 145）の規格改正、配水管講習会に関わる運営委員会の検討事項について決定した。

また、「新 JIS 水道メータへの対応に関する検討会」の設置、集中豪雨による山口市水道局朝田浄水場の浸水被害、駿河湾を震源とする地震の影響、プロジェクト推進室の開設などについて報告を行い、それぞれ意見交換を行った。



第4回 ISO/TC224上水道国内対策委員会（11月26日）

前回委員会及び第4回連絡調整委員会の議事録を確認し、議事に入った。

WG6（アセットマネジメント）のメンバーから、10月に東京で開催された AHG 2（作業部会）会議の内容について報告された。また WG7（危機管理）メンバーから、同じく10月に日本で開催された第4回 WG7 東京会議の内容について報告された。



WG6及びWG7会議は、適用範囲等の質疑が行われ、新しいガイドラインは、柔軟に対応できる内容になるよう、今後、更に検討を深めて行くよう意見が出された。

WG5（ISO24500シリーズの実行）は、ISO24510シリーズの規格発行後における、日本での今までの活用状況等をWG5事務局（アルゼンチン）に報告するために、この活用状況（案）について審議し、一部修正のうえ回答することとした。

第43回国際委員会（11月26日）

国際交流基金研修、WOPs に関する活動、第 6 回日米台地震対策ワークショップ、第 3 回 IWA-ASPIRE 会議（台湾）、ISO/TC224 ワーキンググループ 7 東京会議、IWA Young Water Professional（YWP）、IWA プロジェクト・イノベーション・アワード、平成21年度水道セミナー（仮称）開催等国際展開推進業務、第 7 回 IWA 世界会議、第 4 回 IWA-ASPIRE 会議（東京）について報告を行い、了承された。

続いて、WOPs・YWP 等最新の情報を踏まえ日本水道協会の国際活動について審議を行い、国際交流基金研修参加者の国内移動費の措置や、インターネットの利用による情報発信を当面の課題として取り組むとともに、長期的な取組については引き続き審議することを決定した。

第24回水道施設に関する規格専門委員会（11月26日、27日）

水道用ダクタイル鋳鉄管・異形管（JWWA G 113・114）の規格改正について、第 2 回目の委員会を開催した。継手性能の規定化とそれに伴う寸法記載の見直し、NS 形の呼び径 300～450の追加と S II 形の呼び径75～250の削除などの内容について審議した。

第63回中小規模水道問題協議会（11月27日）

35都市が参加し、「地域水道ビジョンの策定」、「水道加入負担金」、「職員の配置、担当人数」、「退職給与引当金」、「企業会計システム、料金システム」についてそれぞれ情報交換を行った。その後、事務局から「地方公営企業会計制度等の見直しの概要」について報告を行った。

第40回水道 GLP 認定委員会（11月30日）

静岡市上下水道局（申請番号：JWWA-GLP055）、池田市上下水道部（申請番号：JWWA-GLP056）の水道 GLP 認定について審議を行い、審議の結果、水道 GLP 認定を決定した。

第134回水道事業管理者協議会（12月1日）

情報交換事項として、(1)債権管理に関する条例化と債権処理のルール化について、(2)有収率向上の施策、対策について、(3)地下水利用専用水道等に係る水道料金の考え方について、(4)水道水源開発等施設整備費（老朽管更新事業）の要件緩和及び継続について、それぞれ意見交換が行われた。

引き続き、事務局より報告事項として地方公営企業会計制度等の見直しの概要について報告を行った。



第264回理事会（12月2日）

御園専務理事が議長となり、報告事項1「国際会議の動向等について」、報告事項2「第6回日米台地震ワークショップについて」、それぞれ事務局から報告された。

続いて議案の審議に入り、第1号議案「常任理事の互選について」、第2号議案「日本水道協会第78回総会会員提出問題等の処理について」、第3号議案「水道施設設計指針改訂特別委員会について」がそれぞれ上程され、審議の結果、原案のとおり決定した。

会議終了後、第2号議案の議決に基づき、出席理事により関係各省、主要国会議員に対し陳情を行った。



第2回^{いのち}生命の水道・ニッポン運営委員会（12月2日）

議題①「副委員長^{いのち}の互選」を上程し、副委員長には東京都公営企業管理者の尾崎委員が選出された。次に議題②「検討部会の設置について」了承され、部長に滝沢東京大学大学院教授を、検討部会委員は「水道の安全保障に関する検討会」の検討部会委員であった東京都、横浜市、名古屋市、大阪市から委員を選出することが了承された。また、議題③



「生命の水道・ニッポン」の活動方針については、事務局から広域化及び公民連携推進に関する検討項目とロードマップについて説明し、活発な議論の後、活動方針が了承された。

第637回抄録委員会（12月7日）

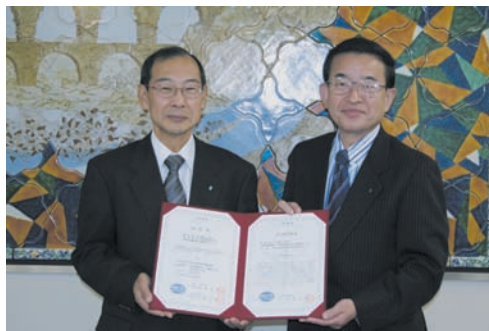
（株）クボタ京葉工場のダクタイル鋳鉄管製造過程などを視察し、その後、同工場会議室にて本誌平成22年3月号に掲載する外国の抄録内容について審議した。

第882回会誌編集委員会（12月8日）

本誌1月号、2月号の編集方針、投稿原稿の審査、新規原稿の取扱い並びに水道協会雑誌の編集企画について審議した。

水道 GLP 認定証授与式（12月9日）

水道 GLP 認定委員会で認定が決定した平成理研株式会社環境科学センターの認定証授与式を日本水道協会専務理事室において行った。



平成22年度水道関係政府予算対策室の設置（12月16日）

日本水道協会では、12月16日に平成22年度水道関係政府予算対策室を設置した。

